

特集3 エコステ

JR東日本では、さまざまな環境保全技術を導入し、省エネルギー型の駅を創る「エコステ」を展開しています。

「エコステ」とは駅設備に省エネルギー、再生可能エネルギーなど、さまざまな環境保全技術(エコメニュー)を導入する取り組みのこと。今後もさまざまな地域で、それぞれの地域特性にあった「エコステ」を実現していきます。

■ 中央線四ツ谷駅 ～四ツ谷駅から、エキはエコへ。～

「エコステ」のモデル駅第一弾である中央線四ツ谷駅では、4つの柱をもとに、さまざまな環境保全対策を実施しており、17のエコメニューを導入しています。

1.省エネ ホームやコンコースへのLED照明の導入、電気掲示器や車掌用ITVのLED化を始め、トイレの節水、空調設備の高効率化、昼間の電気消灯のためのトップライト(天窗)などを導入。これにより、年間約176トンのCO₂を削減します。



2.創エネ 赤坂口にある駅舎の屋上に、50kWの太陽光発電システムを導入。これにより、年間約13トンのCO₂を削減します。また、グループ会社である(株)アトレにおいても、四ツ谷駅に隣接した「アトレ四谷」屋上に太陽光発電パネルを設置しています。



3.エコ実感 お客様に取り組みを実感していただけるよう、いつでも誰でもご覧いただける「エコ情報表示盤」を設置しています。また、駅出口付近への保水性舗装の設置により、歩行者空間での熱環境の改善をめざしています。



4.環境調和 駅舎屋上に、屋上庭園を設置しています。また、ホームの屋根や擁壁の緑化も実施しています。



四ツ谷駅では、上記の取り組みを実施するとともに、駅社員が積極的に省エネに取り組むことにより、年間約189トンのCO₂排出量削減(2008年度比△40%)をめざします。この削減量は、約13,500本の杉の木が1年間に吸収するCO₂量に相当します。

■ 東北本線平泉駅 ～ゼロエミッションステーションの実現へ～

東北本線平泉駅では、太陽光発電と蓄電池を組み合わせることにより、晴天日^{*}においては、駅電力使用量をすべて賄いCO₂排出量をゼロにする「ゼロエミッションステーション」をめざします。

^{*}気象庁用語によると、1日の日照時間が40%以上の日をいい、平泉駅付近は年間170日程度です。

1.省エネ ホーム、駅事務所へのLED照明の導入や、遮熱塗装を行い駅舎の断熱性の向上を行います。



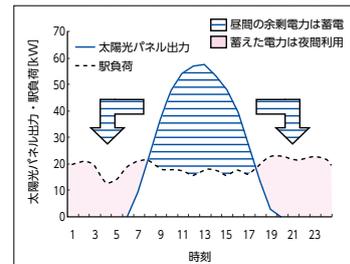
2.創エネ 駅東側に太陽光発電パネルと蓄電池を設置しています。



3.エコ実感 お客様に取り組みを実感していただけるよう、いつでも誰でもご覧いただける「エコ情報表示盤」を設置しています。



ゼロエミッションステーションの考え方



VOICE

エコステに生まれ変わった四ツ谷駅は、「エコを学べる施設」へ

東京都の中央線四ツ谷駅は、「1.省エネ」「2.創エネ」「3.エコ実感」「4.環境調和」という4つのコンセプトのもと「エコステ」として、新たに生まれ変わりました。

太陽光発電や緑化、LED照明など17にも及ぶエコメニューを導入しましたが、四ツ谷駅で働く者として特に実感しているのは、自然のままの風と光を駅の中で身近に感じるようになったことです。具体的には「トップライト」と「自然換気システム」という2つのエコメニューによる効果なのですが、江戸城外堀跡に位置して緑が多い四ツ谷駅の環境に、明るい自然光とさわやかな風がマッチしていて、とても居心地の良い駅になったと思っています。お客さまからも「きれいになったね」というお声をたくさんいただきました。

また、照明をLEDに替えたことで、省エネを実現しつつ夜間のホームが昼間並みに明るくなりました。駅を通過する電車の乗務員からも「すごく明るくなった」と、よく言われています。ホームの明るさは、運転士の立場から考えるとホームにいらっしゃるお客さまの見やすさに直結します。ですから、お客さまの安全を第一とするJRの駅として「明るくて見やすい」というのは、エコであることを超えてとても良いことだと考えています。

エコステとなって以降、小中学校の社会科見学や修学旅行で訪問いただくケースが増えてきました。いま考えているのは、地域の小中学校の生徒たちに、環境を学ぶ教材としてエコステである四ツ谷駅を活用していただくことです。現在、エコ推進メンバーを中心に17のエコメニューすべてを見学するためのガイドを作成しようと計画中です。地元の方々に、四ツ谷駅を環境教育のシンボルにしてもらうことができれば、他にはない四ツ谷駅ならではのエコ活動と言えるのではないのでしょうか。最近では「エキナカ」が注目され、駅はショッピングやレジャーの空間としても利用価値を高めています。四ツ谷駅は「エコを学べる施設」に変わったことで、駅として新たな可能性を開くことができたと考えています。

今後、各地でエコステの計画が進められていきますが、エコステ第1号の駅長として、この四ツ谷駅で実のあるエコ活動に繋がるデータを採取していただいで、それをこれからのエコステづくりに役立てていただきたいと思います。駅ごとの特徴を活かしたエコステの姿があると思いますから、四ツ谷駅とは違うカタチのエコステを、ぜひ見てみたいと思います。

駅社員のエコ意識も「エコステ」品質をめざします

エコステでは、駅社員の意識を高めることも大切です。17のエコメニューによってハードは整っているのに、あとは、私たちが今まで以上の意識を持ってエコ



社員の取り組みを支援する「電力量計測装置」

活動を進められるかが問われるのだと思います。せっかく恵まれた設備に囲まれているのに、私たちの意識が低いままではもったいないですから。現在、私をはじめとするエコ推進メンバーが中心になって、駅社員全体の意識向上を図るための取り組みを、試行錯誤を重ねながら進めているところです。



エコステのシンボル「屋上庭園」



東京支社 四ツ谷駅長
(現：東京支社 総務部
サービス品質改革室長)
白山 弘子



東京支社 四ツ谷駅
営業主任
田中 渚